源太郎踊

【所　在　地】熊毛郡中種子町野間町山崎（町山崎源太郎踊保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 39 年６月５日

源太郎踊は鎌倉時代から念仏踊りとして踊られていたといわれ，旧暦 10 月 16 日の野間神社の願成就に奉納される。

踊りの構成は，大太鼓，小太鼓，鉦，外踊り（女性）からなる。大太鼓・小太鼓はともに太鼓を前に抱いているが，大太鼓は花模様の衣裳に股引・脚胖で鉢巻をしめ，小太鼓は着流しの黒衣装に帯をタスキにかけ，花笠をかぶる。鉦は小太鼓と同じ服装で帯をケサ掛けにしている。外踊りは紋付に太鼓帯をしめ，扇子とアヤ（縞模様のついた棒）を持つ。

踊りは７種類あってそれぞれ独立した曲と踊り方で，隊形も様々に変化するなど構成が複雑である。小太鼓や鉦がケサをかけていること（現在は帯をケサ状につける），女性が外踊りとして参加していることが県本土の太鼓踊りと異なるところである。

〈参考〉

●願成就　旧暦９月頃に種子島各地で行われる収穫感謝祭で，春に氏神に１年の豊作の願を立てその成就を祝う祭りである。まず大字（近世の村）ごとにまつってある氏神で行われ，ついで各小字ごとの氏神，一家ごとの一族氏神での祭りが続いて行われる。村氏神の祭りには各集落から踊りが奉納されるため，各集落はたくさんの芸能を保持している。